

暫定議題案
第 14 回科学委員会会合に付属する拡大科学委員会
釜山、韓国
2009 年 9 月 5 - 11 日

1. 開会
 1. 1. 参加者の紹介
 1. 2. 会議運営上の説明
2. ラポルツアアの指名
3. 議題及び文書リストの採択
4. 漁業のレビュー
 4. 1. 国別報告書の発表
 4. 2. 事務局による漁獲量のレビュー
5. モデル作成に関する休会期間中の作業についての報告
6. オペレーティング・モデル及び管理手続に関する技術会合からの報告
7. オーストラリアの SBT 蓄養に関する研究
 7. 1. 2008/09 年漁期におけるオーストラリアの蓄養に関する研究
この議題項目において、日本は更新した文書を提出するだろう。
 7. 2. オーストラリアの SBT の蓄養に関する研究についての ESC から拡大委員会への科学的助言/勧告
8. 日本の市場のモニタリング
オーストラリアはこの議題項目の下でこの課題に関する文書を提出するだろう。
9. SBT の評価、資源状況及び管理
 9. 1. OM 構造及びデータ入力に関する最終決定
 9. 2. 漁業指標のレビュー
 9. 3. シナリオ・モデリング及び指標分析に基づく、資源状況及び種々の TAC に関連する短期的なリスクに関する助言
戦略・漁業管理作業部会会合は、ESC に対していくつかの要求を行った。それには、以下が含まれる。
 - *他の漁獲量予測及び資源の生物学的収容量を評価するための基準として、漁獲量ゼロに基づく予測を作成すること。2008 年の ESC によって提案された 5 つの一定漁獲量下での将来予測の選択肢（これらの基準となる漁獲量は 11,810t）も作成すること。*

- 第11回科学委員会会合の報告書表2において規定されている様式により、将来の漁獲レベルの結果に関する助言を提出する。しかし、それらには30パーセントを加え、かつB2020 / B2010 及び B2025 / B2010 に関する性能統計も含めること。
- 将来予測の結果のグラフを提出すること。
- 可能ならば、2009年のMSYを決定する（さもなければ2010年までに実施すること）。

9.4. SBT 資源の状況

資源の現状の概要 ESC が、FAO 及び他のマグロ類 RFMOs への提供のために作成する SBT に関する生物学、資源状況及び管理についての年次報告書のアップデートが提出されるべき。可能ならば、アップデートされた年次報告書に”神戸”プロット¹を含めるべきである。

9.5. SBT の管理に関する勧告

9.6. SBT の資源管理に関する可能性のある技術的措置の議論

10. 管理手続の開発

10.1. 漁業に依存しない指標に基づく MP の開発及び評価に関連した技術的な課題についての報告書

SC13 において、2009 年の ESC に報告するためにこのトピックに関する文書を提出することが合意されている。

10.2. 可能性のある MP のオプション及び MP のインプット・データのシミュレートに使用される仮定の議論

10.3. 最初の MP のトライアルの立ち上げ及び将来の MP の開発のための作業計画の改善

戦略・漁業管理作業部会は、2011 年に MP を実施するために、2010 年にそれを最終化することを確認した。

11. データ交換

11.1. 2010 年のデータ交換のための要件

12. 調査死亡枠

13. 第8回生態学的関連種作業部会会合の報告書

第8回 ERSWG は、ESC 会合の直前に開催される。ERSWG の付託事項は次のとおり明示している。

「生態学的関連種作業部会は、科学委員会を通じて委員会に報告する。科学委員会は生態学的関連種作業部会の報告書に対してコメント（助言及び勧告を含めて）を提出することができる。」

14. 2010 年の作業計画、予定表及び 調査予算

14.1. 提案された 2010 年の研究活動の概観、タイムスケジュール及び予算の見込み

14.2. 次の会合の時期、期間及び構成

¹ 2007 年に神戸で開催されたマグロ類 RFMOs の合同会合においては、すべてのマグロ類 RFMOs が、異なるマグロ資源の状況を簡潔に比較するために、色分けした4象限を用いて、B/Bmsy に対する F/Fmsy の軌跡で示される標準化された資源の状況のプロットを作成することが合意された。

戦略・漁業管理作業部会は、ESC に対して審議のために必要とされる会合の期間及びプロセスを慎重に検討するよう求めた。そして、可能な場合には、2010 年の会合は 7 日以内にその作業を完了するよう要求した。

15. その他の事項
16. 会合報告書の採択
17. 閉会